## 資料編

資料1　市勢の概況
資料2　市民・事業者の意識調査結果
資料3　吹田市環境審議会委員名簿
資料4　本計画の策定経過
資料5　吹田市環境基本条例
資料6　環境年表
資料7　施策とSDGsの目標
資料8　用語説明

# 資料編

## 資料 1　市勢の概況

### 1　位置・地形

本市は、大阪府の北部に位置し、東は茨木市及び摂津市、西は豊中市、南は大阪市、北は箕面市に接しており、東西 6.3km、南北 9.6km、面積は 36.09km$^2$ を占めています。

地勢としては、北部は北摂山系を背景として標高 20mから 117mのなだらかな千里丘陵、南部は安威川、神崎川や淀川のつくる標高 10mほどの低地から形成されています。また、水遠池、春日大池、釈迦ヶ池などのため池が残っています。

図 1　吹田市の位置

図 2　吹田市の地形

### 2　気候

本市は、瀬戸内気候に属する温和な気候で、平成 29 年(2017 年)は年平均気温が 16.7℃、晴天日数、曇天日数、雨・雪日数がそれぞれ 253 日、70 日、42 日となっています。年間降水量が 1117.5mm であり、平均風速は 1.9m となっています。

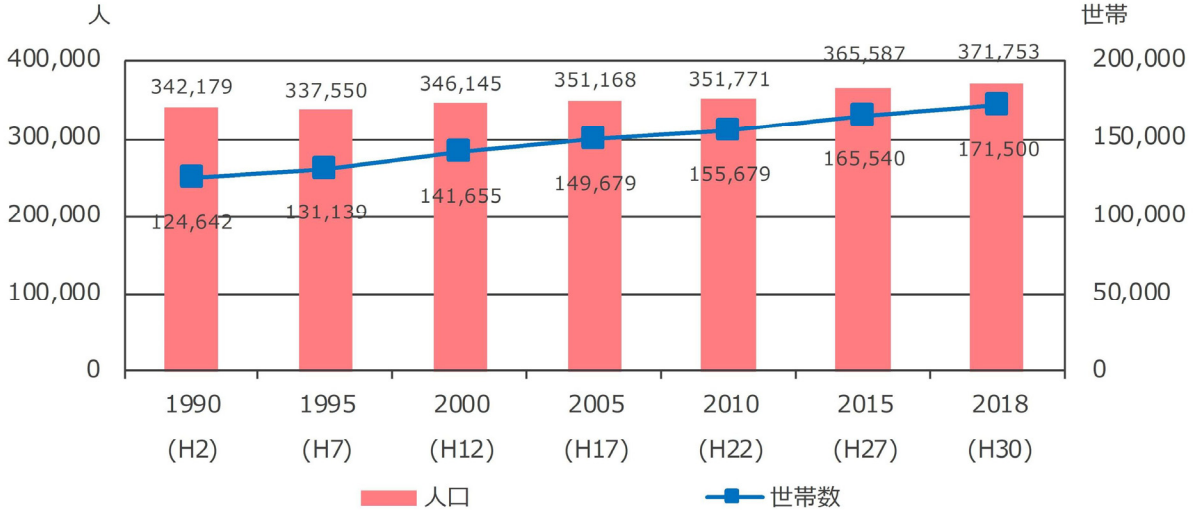
直近 5 ヶ年（平成 25 年（2013 年）～平成 29 年（2017 年））の平均値は、年平均気温が 17.0℃、最高気温が 38.5℃、最低気温が-1.8℃となっています。

## 3　人口

本市の平成 29 年（2017 年）の人口は、370,365 人（世帯数 169,790 世帯、1 世帯当たりの平均人員 2.2 人、人口密度 10,262 人/km²）です。

昭和 15 年（1940 年）の市制施行時に 66,094 人であった人口は、昭和 30 年代から急激に増加し、平成 15 年（2003 年）には 35 万人に達しました。

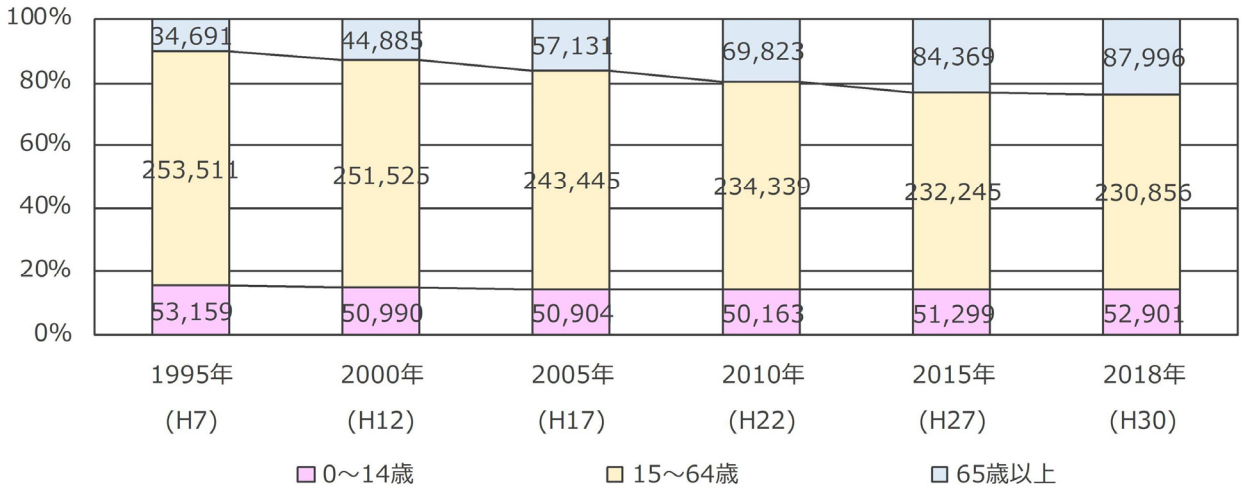
平成 23 年（2011 年）以降、人口・世帯数ともに増加し続けている状況となっています。一方で、一世帯あたりの人員は年々減少しており、世帯規模の縮小化が進んでいます。




（平成 30 年版　吹田市統計書）

図 3　人口・世帯数の推移

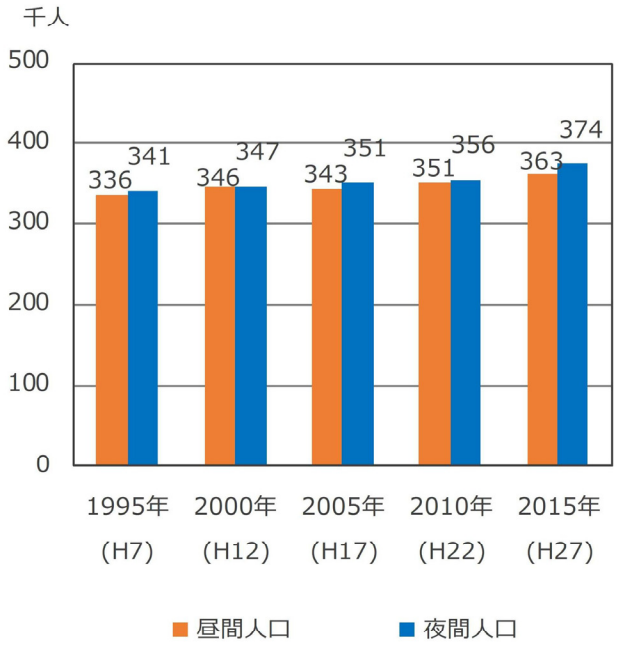
平成 7 年（1995 年）以降、65 歳以上の人口は増加している一方で、15～64 歳の人口は減少しています。0～14 歳は平成 22 年（2010 年）まで減少傾向でしたが、以降は増加傾向に転じています。年齢構成比は、65 歳以上は増加傾向であり、それ以外は減少傾向です。




（平成 30 年版　吹田市統計書）

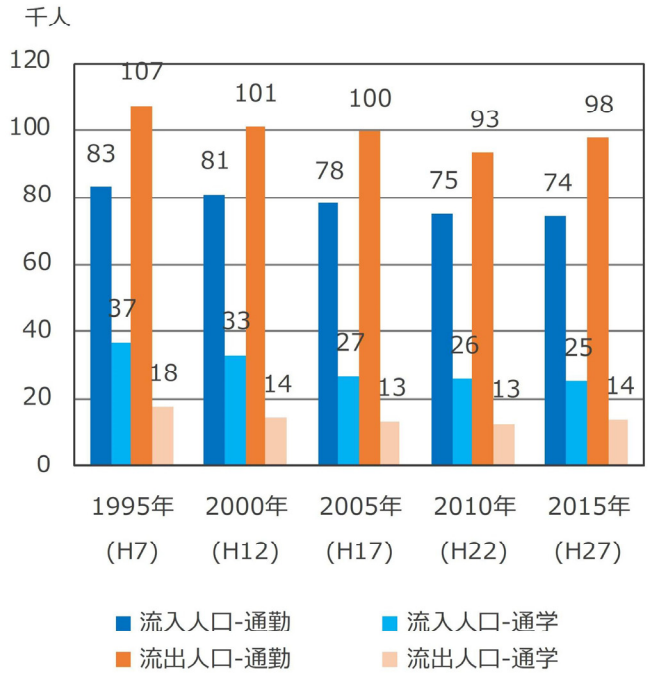
図 4　年代別人口の推移

転入や転出により、年間 2 万人を超える市民が入れ替わっている状況が続いています。また、昼間人口は夜間人口より若干少なく、大阪市のベッドタウンとなっていることがうかがえますが、市内に 5 つの大学が立地しているため、通学については、流入超過となっています。




（平成 30 年版　吹田市統計書）

図 5　昼間・夜間人口の推移




（平成 30 年版　吹田市統計書）

図 6　流入・流出人口の推移

## 4　土地利用

昭和 30 年代（1955-64 年）の高度経済成長以前には、南部平野部の水田地域と北部丘陵部の果樹、野菜、竹林（タケノコ）などを栽培する農地・山林が約 70%を占めていましたが、千里ニュータウンの建設、日本万国博覧会の開催などを契機に開発が進み、農地・山林は激減しました。平成 27 年（2015 年）10 月 1 日現在、市街地として利用されている面積は全体の 63.9%で、学校、鉄軌道敷・道路、公共施設を加えると全体の 82%になります。（表１）

平成27年(2015 年) 10 月 1 日現在

| | 項目 | 面積(ha) | 比率(%) |
|---|---|---|---|
| 市街地 | 一般市街地 | 1976.3 | 54.8 |
| | 商業業務地 | 7 | 0.2 |
| | 官公署 | 202.6 | 5.6 |
| | 工場地 | 118.9 | 3.3 |
| 普通緑地 | 公園・緑地 | 309 | 8.6 |
| | 遊園地・運動場 | 118.8 | 3.3 |
| | 学校 | 282.6 | 7.8 |
| | 公開庭園・社寺敷地 | 12.5 | 0.3 |
| | 墓地 | 0.8 | 0 |
| 農地 | 田 | 12.7 | 0.4 |
| | 畑 | 53.3 | 1.5 |
| 山林 | | 18.9 | 0.5 |
| 水面 | | 64.5 | 1.8 |
| 荒無地・低湿地 | | 26.3 | 0.7 |
| 公共施設 | | 80.7 | 2.2 |
| 鉄軌道敷・道路 | | 291.9 | 8.1 |
| その他空地 | | 32.2 | 0.9 |
| 合計 | | 3609 | 100 |

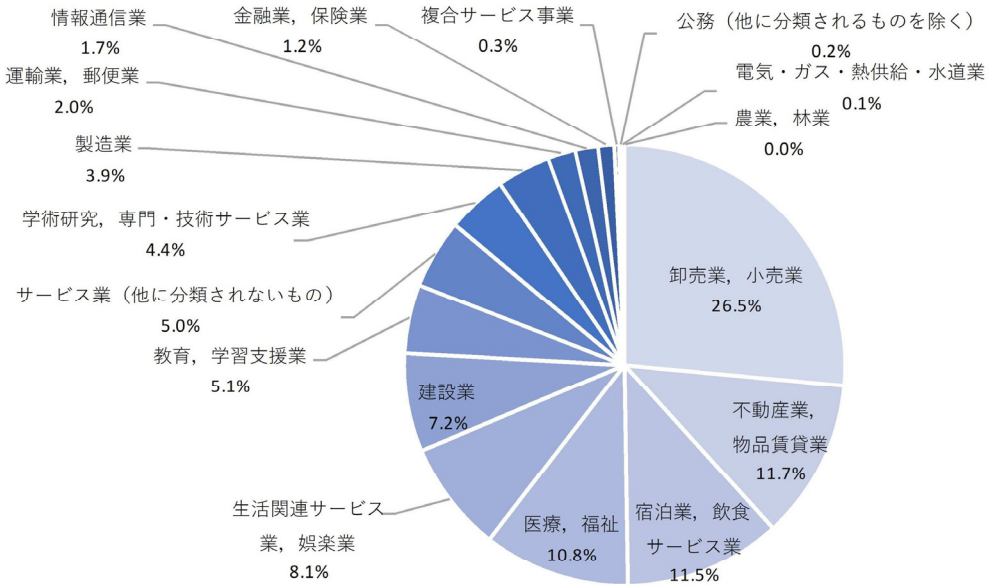
（都市計画基礎調査、平成27年10月1日現在）
※項目は都市計画基礎調査による。
※面積はおおむね 0.5ha 以上のまとまりのあるものを測定。

表１　土地利用現況内訳

## 5　産業（農業・工業・商業）

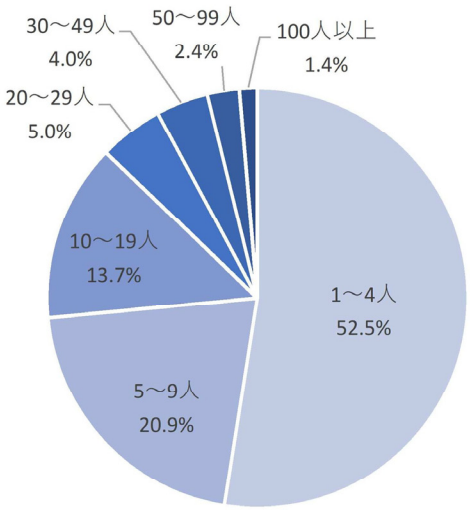
市内の事業所の産業分類を見ると、農林水産業などの第１次産業はごくわずかで、製造業、建設業などの第２次産業は 11.1%（建設業 7.2%、製造業 3.9%）に留まり、卸売業・小売業（26.5%）、不動産業・物品賃貸業（11.7%）、宿泊業・飲食サービス業（11.5%）などの第３次産業が、合計で 88.8%となっています。（図７）

事業所の規模別で見ると、10 人未満の事業所が 73.4%を占めています。（図８）




（平成 26 年　経済センサス）

図 7　業種別事業所数割合




（平成 26 年　経済センサス）

図 8　従業者規模別事業所数割合

## 6　学術研究機関

北部に大阪大学・千里金蘭大学、中部に関西大学・大和大学、南部に大阪学院大学の計 5 大学があり、留学生なども含め多数の学生が市内で学んでいます。さらに、国立循環器病研究センターや大阪大学医学部附属病院、市民病院などの医療機関が数多く立地して、市民生活の安心を支えています（図９）

## 7　交通

本市は、名神高速道路、中国自動車道、近畿自動車道の結節点を有するとともに、市域から 10km 圏内には JR 新大阪駅や大阪国際空港が位置しており、遠隔地との交通の便に優れています。また、国道をはじめとする幹線道路や複数の鉄道路線が市内を通るとともに、多くの鉄道駅があり、大阪都心部や近隣都市との間の移動を容易にしています。また、平成 31 年（2019 年）には JR おおさか東線（放出・新大阪間）が開通し、本市にも新たに南吹田駅が設置され、さらなる利便性の向上が期待されています。（図９）

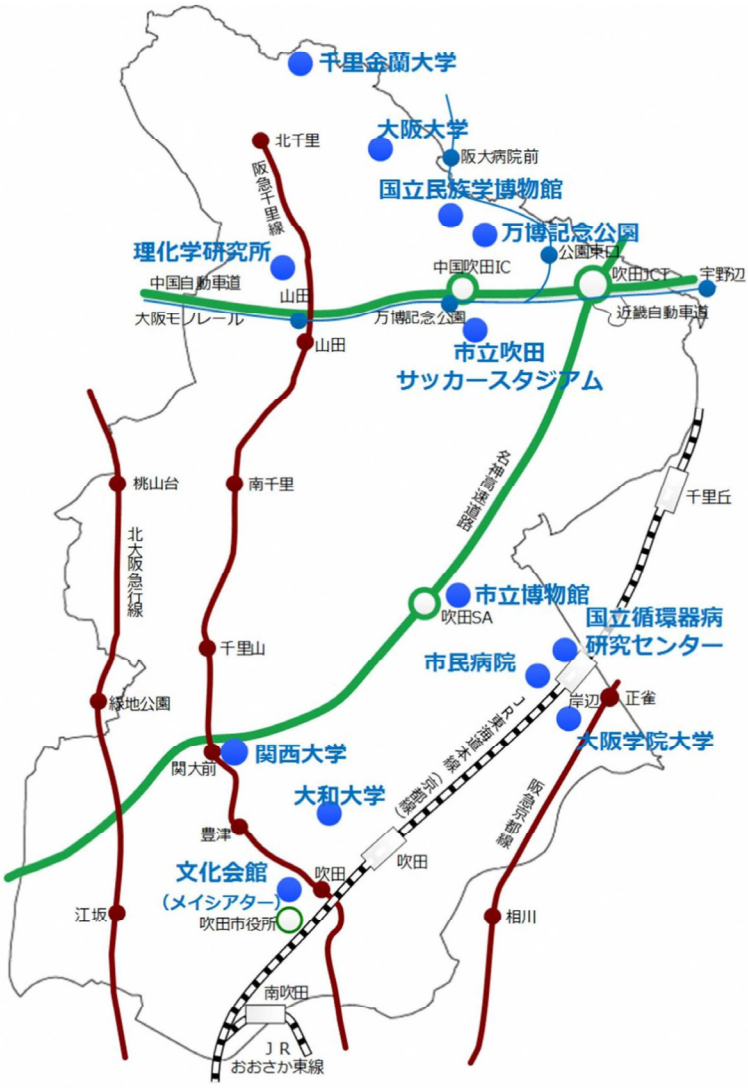



図 9　学術研究機関位置及び交通網